



プレゼンは前半・後半に分かれ、各20分の交代制。ポスターには、オーストラリア海外研修での実体験や、その前後に行った調べ学習の成果が凝縮されており、中2生にとっては、自分たちの海外研修のときに役立つ情報ばかり。「わかりやすい発表でした。おいしいアイスクリームの話などもあり、海外研修がますます楽しみになりました！」(中2生)



「豪語にふれて」をテーマに選んだYくんは、「地域によって単語のつづりや発音が異なることを現地で実感したので、詳しく調べてみました。わかりやすい説明を考えるのが楽しかった!」と語り、満足のいく発表となった様子。

プレゼンテーション力と  
コミュニケーション力がアップ



中3生の発表を聴き終えたら、中2生は各自のプリントに感想を記入し、シールを発表者に一枚渡す。そして最後に一番良かった発表に対して投票を行う。中3生たちは、自分のポスターや発表に対する評価を把握できる。

興味のあるテーマのポスターの前に集まった中2生に向けて、中3生が随時プレゼンを行う。「13期生の買ったお土産ランキング」を調べたTさんは「重要なポイントをポスターにまとめ、中2生が海外研修で参考になるような、現地での体験も交えた内容にしました」。プレゼンテーション能力の向上につながっていることがうかがえた。

ここに注目!

同校の教育方針を  
実践する「学芸ESD」

2010年、ユネスコスクールとして認定され「ESD(持続発展教育)」の推進拠点となった同校。それにもない導入されたのが、独自の授業「学芸ESD」で、今回のポスタープレゼンもその一環として実施されています。ESDとは、持続可能な社会の担い手を育てる教育で、その基盤となる人間性や、他人・社会・自然環境との関わりを尊重する姿勢の育成をめざすもの。「学芸ESD」では、国際的な視野を広げながら教養を深め、社会で求められるプレゼンテーション能力や、生きていくうえで不可欠な人と人とのつながりを培うことを目的とした同校独自の授業が展開されており、教育方針である「国際社会のリーダーとして活躍する人材の育成」という教育方針を体現するものといえるでしょう。



集中して発表に聴き入り、メモを取る生徒の姿も。「人と人とのつながりを培いたいと考えています。海外研修ではオーストラリアの生徒たちとつながることができました。ポスタープレゼンでは、後輩たちに自分たちのやってきたことを伝えることで、つながりを感じてほしい」(岡崎先生)



異文化の中で、現地の人と  
積極的に交流をはかる



海外研修のなかでも、生徒たちにとって大きな刺激となったのが、ベリスハイスクールの訪問。現地の生徒たちと、ほぼ1対1で接することができた。「辞書を引ながら、何とか自分の思いを伝えようとする姿を見て、たくましさを感じました。気持ちを伝え合う喜びを実感できたと思います。メールアドレスを交換し、今も交流が続いている生徒もいるようです」(岡崎先生)

海外研修で人とのつながりを  
ポスタープレゼンで  
「調べる力」「まとめる力」  
「人前で話す力」を着実に伸ばす

オーストラリア海外研修の大きな魅力の一つは、豊かな自然と触れ合えること。ファームステイでは、羊毛刈りや乗馬などを体験した。写真は、シドニー市内観光で訪れた動物園の「フェザーデール・ワイルドライフパーク」。コアラと触れ合うなど、貴重なひとときを過ごした。

大阪学芸  
中等教育学校

昨年9月に中3生全員が参加したオーストラリア海外研修での体験をまとめた「ポスタープレゼン」が2月に実施されました。各自が海外研修での体験に基づきテーマを選んで調べ学習を行い、一枚のポスターにまとめます。そして中2生へ向けて「オーストラリア研修報告」としてその内容を発表します。

このプレゼンに向けて、海外研修前から段階的なカリキュラムが用意されています。まずは授業参観で、2人1組で日本の世界遺産を調べてポスターを作成し、発表します。7月からはオーストラリアに関する調べ学習を開始。一人が一つのテーマを担当し、クラスメートの前で発表する機会を設けます。

「調べる力、まとめる力、人前で話す力が着実に伸びていきます。高校ではプレゼン用のソフトなどを用いて、これらの力をさらにレベルアップさせたいですね」(3学年主任・岡崎剛士先生)



2~3か月をかけて完成させたポスター。最終チェックを済ませた生徒から、決められた場所に掲示する。



多彩なテーマで  
個性あふれるポスターが並び

「日本とオーストラリアの関係」「オーストラリアの貨幣」「レストランでのマナー」「授業と部活の日割比較」など、テーマは実に多彩。オーストラリアで撮った写真や手描きのイラストをプラスしたり、見やすい表組みにしたりと、さまざまな工夫がなされている。